

## 第102回 関西広域連合委員会

日程：平成31年3月2日（土）

場所：リーガロイヤルNCB 2F 淀の間

### 開会 11時20分

○井戸広域連合長 第102回関西広域連合委員会を開催したいと思います。

まず協議事項として、関西広域連合の事務局の組織体制、来年度の組織体制についてお諮りさせていただきたいと思います。

事務局、御説明してください。

○事務局 資料1をお願いいたします。

平成31年度の本部事務局の組織（案）についてです。今年度は大きく組織を見直しましたが、この間、支障なく運用できておりますことから、来年度は組織・定数ともに現状維持でいきたいと考えております。よろしくをお願いいたします。

以上です。

○井戸広域連合長 それでは続きまして、私のほうからでありますけれども、天皇陛下御在位の賀詞が議会のほうでおまとめになられる予定ですので、もしおまとめになられるようだったら、委員会としても議会と歩調を合わせていただくということで取りまとめたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

続いて、2025年の大阪・関西万博につきまして御報告です。よろしく申し上げます。

○事務局 資料2をご覧願います。

大阪・関西万博に関する最近の動きについて、御報告させていただきます。

1点目。2025年日本国際博覧会協会の設立についてでございます。

去る1月30日に、2025年の日本国際博覧会の準備及び運営等を行うための組織として設立されました。役員としましては、会長に中西日本経済団体連合会会長が就任さ

れましたほか、副会長には井戸関西広域連合長を初め、ご覧の10名の方が就任されました。

次に、おめくりいただきまして裏面をご覧ください。

大阪・関西万博具体化検討会についての御報告です。

この会議は、2020年5月までにB I Eへの提出が求められております、登録申請書の作成に向け、経済産業省が設置したものでございます。1月25日には1回目の会議が開催され、井戸広域連合長には委員として御出席いただきました。各委員からは、万博のコンテンツ、会場計画、交通アクセス、若者参画等、多岐にわたる発言がありました。

井戸広域連合長からは中ほどに書いておりますが、常に関西全体の取組であることを忘れず進めていただきたい。若者の意見を反映できる仕掛けをつくっていただきたい。ワールドマスターズゲームズ2021関西の開催を万博につなぐ工夫をしたい。万博のレガシーを次世代につなげていく必要がある。関西全体で取り組む意味合いからも、希望するところにはサテライト会場の設置を柔軟に認めてほしい。また、万博に来た人を関西だけでなく全国に周回させる必要がある。交通アクセスについて、神戸等西側からの海上アクセスを考える必要がある。あわせて瀬戸内海をにらんだ発想も必要。徳島、白浜を加えた関西にある5つの空港をうまく運用させる必要があるといった発言をいただきました。

今後のスケジュールにつきましては、検討会にワーキンググループを設置し、有識者へのヒアリングを行いながら、今年の夏頃には検討結果を取りまとめ、12月には登録申請書を提出することを目標に進めていきたいということでございます。

説明は以上です。

○井戸広域連合長　それでは、特に濱田委員からはありますか。ございませんか。

いずれにしても、大阪・関西万博、協会も発足しましたし、しっかりと地元として協力しながら推進を図っていく必要がありますし、あわせてサテライトを含めた

関西全体としての取組の必要もありますから、しっかりとした提案をですね、各府県市でも検討していただいた上で組織委員会に働きかけができるようにしていきたい。広域連合としては、各府県市の提案を取りまとめるというよりはバックアップしていくというような形で臨ませていただきたいと考えておりますので、御理解いただきましたらと思います。それではどうぞよろしく願いいたします。

続きまして、G20大阪サミットについての取組についてであります。

濱田副委員からお願いします。

○濱田副委員 資料の3をお願いいたします。

G20大阪サミット、御案内している6月28、29の両日にわたって行われます。いよいよ4カ月ほどとなってまいりましたが、住民の皆さんの認知度がいま一歩高まっていないという状況でございまして、我々も危機感も抱いているような状況でございまして、したがって、より戦略的・集中的な広報を行ってまいりたいと思っておりますので、ぜひ皆様にも御協力をお願いできればということでございます。

後ほど、詳細はサミット事務局なり府警本部から御説明いたしますけれども、開催の前後を含めまして4日間、6月27から30日までにつきましては、大阪市内の交通総量を半分に減らすということでやっていかないといけないと思っておりますので、具体的には大阪市内へのマイカーの乗り入れは自粛していただくとか、業務用車両も偶数ナンバー、奇数ナンバーで制限をすとか、こういった形での対応を考えたいと考えておりますので、ぜひよろしく願いいたします。また、あわせて関西の魅力発信もこの機会にしっかりやっていこうということでございますので、この点につきまして、引き続きの御協力をお願いできればと思います。

それでは、具体的な細かい中身に関しまして、サミット事務局、府警本部から説明いたします。

○事務局 2019年G20大阪サミット関西推進協議会事務局長を拝命させていただいております、吉田と申します。皆様におかれましては、G20大阪サミットの成功に向け、

これまでも事務局への職員派遣を初め、多大な御理解・御協力を賜りまして、改めて感謝申し上げます。

それでは、資料3に基づきまして、これまでの準備状況とお願い事項について御説明させていただきます。

今、お話もございましたが、サミットまでもう残り4カ月を切りました。6月28日、29日です。この期間、本会議の他、各参加国による2国間会談、あるいは総理夫妻が主催されます夕食会、配偶者プログラムなど、関連行事が多々行われる予定でございます。現在、これについては国において調整されているところでございまして、協議会では国とも連携させていただいて、住民・事業者への周知、安心・安全な会議環境の確保、最高のおもてなし、大阪・関西の魅力のPRに向けて取組を進めさせていただいているところでございます。

住民・事業者への周知でございますが、会議の成功には住民・事業者の御理解、御協力が不可欠でございます。これまでの取組ということで、上段のほうに書かせていただいておりますが、地元住民・事業者を中心に周知、PR活動を進めさせていただいていました。ただ、12月に府警で行われたアンケートで、サミットの6月開催は、まだまだ認知度が行き渡ってませんでして、8%という数字が出ておりました。今後はそういう状況に危機感を持って、下段にありますような、より広範囲での認知度向上に向けたPR。国や警察等とも連携させていただいて、テレビや新聞などの活用も含めた戦略的・集中的な広報展開に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、安全・安心の確保に向けた会議環境の整備でございます。これまで防災危機管理とかドローン対策とか交通総量抑制、様々な取組を進めております。その中でも後ほど府警本部からも御説明がございまして、サミット開催の前後を含む、6月27から30日、高速道路、市内を中心に長時間にわたる交通規制が予想され、先ほど副知事からも話がございましたように、平日通常時の50%の交通総量抑制が必要です。今後、マイカー利用の自粛などの呼びかけを警察とも連携させていただきながら進めてまい

りたいと考えております。

資料右の上に、サミットを通じた大阪・関西の魅力PRについて書かせていただいています。昨年10月、皆様の御推薦のもと作成した製品のリストを外務省に提出。外務省からは、一つでも多く活用したいというふうにお言葉をいただいておりますが、その後も機会あるごとに活用を働きかけるとともに、地元でもホテルシェフへのPRなどに取り組んでまいりました。

今後、サミット会場での地元産品等の展示、プレスツアーの実施、大阪・関西の魅力を盛り込んだ動画の配信等を予定しております。なお、プレスツアーにつきましては、在京メディアだけじゃなくて、サミット開催期間中に来られる外国メディアを対象としたツアーも開催できないか。その辺は外国メディアのニーズなどを踏まえて検討していきたいと考えております。

以上について、協議会として今後残り4カ月、全力で取り組んでまいりますが、各構成府県市の皆様におかれましても、最大限の御協力をお願いしたいと思っております。

具体的には、3つ書かせていただいております。住民や事業者等への周知、認知度向上に向けて施設等でのポスター・リーフレット等の掲出、あるいは広報誌等を通じたPRをお願いしたい。安全・安心なサミット開催への協力ということで、特に交通総量抑制等への協力に向けて呼びかけ、要請をお願いしたい。

大阪・関西の魅力発信につきましては、プレスツアー、あるいはサミット会場での展示に係る事業者等との仲介について御協力をお願いしたいと思っております。近日中に、改めて別の機会を設けさせていただいて、交通総量抑制等の周知、大阪・関西の魅力発信について御説明させていただきたいと思っております。

繰り返しになりますが、サミットまで残り4カ月を切りました。皆様の御理解、御協力のもと、万全な準備を進めてまいりたいと思っております。引き続きの御支援、御指導のほどよろしく願いいたします。

私からは以上です。

○井戸広域連合長 ありがとうございます。

特に御意見等ありましたら。

平井委員、どうぞ。

○平井委員 このたび米朝会談があり、決裂をした。さらには米中の交渉がどうなるか。さらには今、ブレグジット、これも3月、あるいはこれが6月に延びるかもしれない。こういうことで、今、大変に世界が流動化している中、G20が大阪で開催されるわけですが、世界中の注目が集まると思います。日本のリーダーシップも問われるわけでありまして、関西広域連合としても全面的に応援をしていくべきだと思います。

その上でありますが、多分、前乗りして、前もってメディアが結構集結する可能性が今回はあります。ですから、そうした期間に関西広域連合のエリア全体も見てください。でもいいような、それぞれの府県も協力をしてですね、そういうメディアツアーなんかも精力的に組んだり、あるいは情報のリーフレットを事前につくっておいたり、またワールドマスタースゲームズ2021関西の、いわばパッケージとしてのビデオソフトを配布したり等、ぜひ事務局でも、この際、関西を世界に売り出すチャンスにもなりますので、それを考えていただければということを変更して申し上げたいと思います。

もう一点、交通規制が6月30日までとなっていますが、その期間内の広域連合委員会や広域連合議会の開催は差し控えるなど、日程を考慮していただきたいと思います。

○事務局 現在6月30日を想定しておりまして、大阪市内を避けるという意味で、豊中市内で会場を確保しようとしております。

○平井委員

できれば日程自体を変える可能性を考えたらどうかと思いますけどね。

○井戸広域連合長

ご指摘のとおり変更するように検討させていただきます。できるだけ早く。

○井戸広域連合長　それと、関西広域連合としても、G20を活用してPRをしていくということで準備を進めたいと思っております。特に関西広域連合というのは何だということから始めなければいけませんし、また具体的な琵琶湖・淀川水系の取組などは非常にインパクトのある取組だと思っておりますので、その辺も含めるとともに、御指摘もありましたように、ワールドマスターズゲームズ2021関西、大阪・関西万博のPRもきちっとしていくということが重要になりますから、そのような要素を取り入れてG20サミットで対応していきたいと思っております。

平井委員からのこの機会を活用して外国メディアに対してどう発信していくかという御指摘は非常に重要な点ですので、どのような対応が望ましいのかも含めて十分検討させていただきたいと思っております。その際には、どうぞよろしく申し上げます。

それでは、府警からよろしく申し上げます。

○大阪府警　平素より警察行政各般にわたり、御理解・御協力を賜りまして、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

それでは、大阪府警察本部として現在取り組んでおります、G20大阪サミット開催時における交通総量の抑制対策について、御説明申し上げます。

資料飛びますけれども、4ページ、具体的対策例と書いてある資料の下段の地図をご覧くださいと思います。

今回のG20サミットにおける混雑予想箇所といたしましては、各国首脳が宿泊するホテルが集中する大阪市内中心部。主会場となるインテックス大阪がある南港地区、また要人が来日・離日の際に利用いたします、関西国際空港と大きく3つのエリアがございます。今回のサミットに際しましては、37の国や国際機関の首相のみならず、これらの御婦人や外務・財務・保健担当大臣らも来日する予定となっております。

このため、会議開催中の2日間はもちろん、その前後には来日・離日に伴う移動が生じますし、また会議以外にも個別の2カ国バイ会談が各ホテル等を行き来して行われることも予想されます。

したがいまして、今申し上げたこの3つのエリアはもとより、この3つのエリアを結ぶ道路につきましては円滑な車列の移動を確保するという観点から、先ほど来ありますとおり、6月27日の木曜日から30日の日曜日までの4日間、大規模かつ長時間にわたる交通規制を実施することが不可避となっているところでございます。

現時点、詳細な日程が確定していないので何とも言えないところではございますが、6月27日木曜日から30日の日曜日までは、資料に記載したエリア・路線につきましては深夜、早朝を除いた日中ほぼ全面通行止めとなる可能性もあると考えているところでございます。

こうした中で、市民生活と社会経済活動への影響を最小限にとどめ、また緊急車両など真に必要な車両が円滑に通行できるようにするためには、交通総量の抑制対策というのが極めて重要となっているところでございます。

このため、資料の3ページに書いてありますけれども、この上段に記載のとおり、関係行政機関や経済団体等を構成員とするG20大阪サミット交通総量抑制連絡会というものを、昨年10月に開催したところでございまして、同連絡会におきましては、当府警察が実施した交通量シミュレーションの結果に基づきまして、平日交通量の50%削減を目標として作成したところでございます。

その上で、これを実現・達成するための具体的な対策、呼びかけといたしましては、資料4ページの上段に記載しましたような具体的対策例のとおり、マイカーの自粛と業務用車両の運行調整を市民の皆様、各企業の皆様に繰り返しお願いをしているところでございます。

まず、マイカーにつきましては、原則としてその利用を自粛していただき、電車の利用への振りかえを。次に、業務用車両の運行調整につきましては、この運行期間を4日間以外に変更することや、運行時間を深夜・早朝時間帯へシフトすること。あるいはナンバープレート末尾番号の奇数・偶数による調整といった方法を、それぞれ例として提示させていただいているところでございます。

サミットに伴うこの大規模な交通規制につきましては、大阪府下が中心になるところではございますが、この交通総量の抑制対策を図る上では、関西隣接府県からの大阪市内への車両乗り入れ自粛という点も極めて重要となってまいりますので、この場をお借りしましてお願いを申し上げる次第でございます。

G20大阪サミットの成功に向けまして、サミットの認知度向上はもとより、この交通総量の抑制対策についてもオール関西の取組として展開いただければ大変幸いです。

私からは以上です。

○井戸広域連合長　　そういう意味では、周辺の幹線道路にも影響があることが考えられますので、関連の地域は事前に心得ておいていただくとありがたいと思います。

それでは続きまして、ワールドマスターズゲームズ2021関西の準備状況について、御報告させていただきます。

○事務局　　資料4をお願いいたします。

3ページに記載しております。

まず1つ目が、カヌーポロの会場地の決定であります。ワールドマスターズゲームズ全競技のうち、唯一、開催場所が決まっていませんでした、カヌーポロにつきまして、兵庫県の宍粟市にあります音水湖カヌー競技場で行うということで競技団体等とも調整ができましたので、この3月20日に予定をしております理事会で決定した上、5月のIMG A総会で報告をする運びとなったということの御報告であります。

次、5ページお願いします。

ワールドマスターズゲームズの障害者の競技参加ということですが、ワールドマスターズゲームズの大きなコンセプトとしまして、性別や能力、障害の有無にかかわらず参画できるという、インクルーシブな大会にしたいということですがけれども、その眼目となるのが競技の運営の中でありまして、今回、2年間近くにわたって各実行委員会と調整をした結果がまとまりました。

大きく2つ類型がありまして、5ページに記載しておりますのは健常者と障害者が一緒になって競技をします。そういう類型であります。その具体的な配慮の仕方については組織委員会で一定の指針を示していますけれども、これに基づいて各実行委員会において詳細は検討していただくということになります。

2つ目の類型は、6ページにありますけれども、これは既にパラリンピック等、障害者の競技として確立しているものについての類型であります。

この2つを合わせて6ページの下にありますけれども、20競技33種目ということになります。過去大会で一番多かったのが、前回のオークランド大会で、その時はアーチェリーや陸上など8競技でインクルーシブな大会に配慮されたということですが、今回の関西の大会では20競技33種目ということで、過去にない規模で行われるということになりました。

それから3つ目の報告ですけれども、ワールドマスターズゲームズの認知度調査、昨年7月に続いて、今年の1月もインターネット調査を行いました。その結果ですけれども、1の認知度、前回8.9%だったのが11.1%ということで2ポイントほど上がりました。それから開催地、9府県での認知度は19.0%。前は少し調査の件数が少なくて2府4県近畿エリアでの認知度ということで、前は15.4%で発表させていただきましたけど、これの比較でいうと、その下に書いてありますように21.3%ということで約6ポイント増えています。今後は、開催地9府県での認知度という形で比較していきたいと考えています。これが認知度調査の結果の推移の部分であります。

それから4つ目の報告ですけれども、これも例年やっています、関西を中心とする大学生の皆さんからワールドマスターズゲームズの運営等についての提案をいただいている、インターカレッジ・コンペティション。今年も開催しまして、8大学18チームの参加を得ました。審査の結果、6チームを優秀賞として選定したということですけれども、1チーム最優秀賞、スポーツ庁長官賞を得た近畿大学のチームの企画・提案内容を少し御紹介いたしますと、150カ国地域の参加を計画していますが、例えば、

参加国の白地図を入れたTシャツを配布して、合わせて各国ごとのピンバッチを作る。参加者には最初からピンバッチ。アメリカから参加された方にはアメリカのピンバッチを沢山最初から無料で用意をしておく。その後、選手同士の交流の中でピンバッチを交換して、なるべく多くの国のピンバッチを集めて、それをTシャツに貼っていくという。そういう形で選手の交流を促進するとしてはどうかという提案でありました。このピンバッチは有償で販売することによって、150のピンバッチを集めるというムーブメントも起こせるのではないかという提案でありましたので、何らかの形でこの提案は具体化を図っていきたいと考えているところであります。

それから最後に、ワールドマスターズゲームズのPR活動。この1月以降のPR活動を紹介していますが、1つ御紹介したいのは、12ページにインドとタイへの広報誘客活動を簡単に書いています。これは、ついせんだって、うちの職員を派遣したばかりですが、インドにマスターズ協会というのがありまして、ここのインドのマスターズ協会は昨年ペナンの第1回アジアパシフィック大会にも約300人近くの選手団を派遣している実績があります。そういうことでコンタクトを取っていたんですけれども、今回、第2回インドでのマスターズ大会に職員を派遣しまして、あちらの関係者と相互連携についての調整を行っていただきました結果、これはまだどうなるかわかりませんが、500人規模の選手団を関西大会に派遣したいというオファーがあって、今後、そのための連携を図っていきたいと思っていますし、タイも実はそういう協会を今作る準備をされているということでお話を聞いたので、職員を派遣して交渉してきました。実は、昨年の第1回アジアパシフィックのペナンについて、第2回目が韓国の全羅北道ですけれども、第3回をこのタイがどうも取ろうとしているようでありまして、ここと連携しながらインドと同じように選手を派遣していただくような協力環境を作っていきたいと考えています。

こういうふうに、特にアジアは5,000人の観客といいますか、アスリートを計画しているんですけれども、なかなかこれは難しいところありまして、現在自治体国際化

協会クレアの全面的協力を得て、各国のスポーツの情報とか、そういうものをいただいて、それに応じて戦略的にこういう派遣をしていこうとしているんですけども、各実行委員会の府県、政令市の姉妹州省、アジアに限りませんけれども、についての情報をお寄せいただきましたら、我々でぜひそれを生かして戦略を展開していきたいと思っています。

来年度が一番の眼目は5万人。特に海外2万人のアスリートの参加をどう獲得するかということに全力を挙げていきたいと思いますので、また御協力よろしくお願ひしたいと思います。

私からは以上です。

○井戸広域連合長 先日、常任委員会を開いたんです。松本会長はですね、2万人とか5万人ぐらいの規模で済むのだろうか。もっと沢山来るのではないかというような感想を述べられておられまして、申し込みが非常に多過ぎたときはどういう対応をするか。それは実行委員会での対応が中心になるのですけれども、できるだけ弾力的に対応して、増やせるのなら増やすということなのですが。宿の関係とかね。というような問題もありますし、それから競技会場と競技時間。消化できるかどうかという問題もありますので、その辺を見ながらできるだけ弾力的に対応していったらいいのではないのかというのが常任委員会での方向づけでございましたので、あわせて報告をさせていただきます。

それでは続きまして、関西女性活躍推進フォーラムの取組につきまして、本部事務局から説明させていただきます。

○事務局 資料5をご覧ください。

まず、平成30年度の取組についてですが、各種会議を開催しまして、関西における女性活躍推進に向け、議論を行うとともに各種取組を進めました。

具体的な取組としましては、(2) 関西における女性の活躍に係る課題分析としまして、ワーキングチームを設置し、既存の統計データを利用しながら、「仕事」、

「家庭生活」、「地域・社会活動」、「環境」の 카테고リーに分けて分析を進めました。（3）でございますが、2月13日には兵庫県民会館におきまして内閣府と共催で関西女性活躍推進シンポジウムを開催しました。当日は井戸広域連合長に御挨拶をいただきましたほか、関西広域連合の大学生との意見交換会で最優秀賞を受賞した、四国大学短期大学部の学生チームの政策提案発表やパネルディスカッション等を行いました。

裏面をご覧ください。

この他、フォーラム構成団体が実施する研修会や啓発イベント等をフォーラムとして共催事業として実施し、各団体間のネットワークを生かしながら関西全体の女性活躍に向けた機運の醸成を図りました。具体的には表に記載しております14の事業についてフォーラムとして取り組んだところでございます。

次に、下段、平成31年度の取組方針についてですが、2月13日にフォーラムの全体会議を開催しまして、大きく次の3つの取組を進めていくことを確認いたしました。

1点目は、平成30年度に引き続き、フォーラム構成団体が実施する研修会やイベント等を共催事業として実施し、関西における女性活躍推進に向けたさらなる機運の醸成を図ってまいります。

2点目は、現在、課題分析ワーキングチームで分析しております、関西における女性活躍に関する現状、あるいは課題といったものについて、仮称ではございますが、「関西女性活躍推進指数」として取りまとめたいと考えております。

3点目は、関西全体で女性活躍推進を進めていくための大きな理念、行動の方向性を「関西女性活躍行動宣言」といったようなものに取りまとめ、公表していきたいと考えております。

説明は以上です。

○井戸広域連合長　先日、外資系企業の皆さんと女性の活躍をめぐってディスカッションする機会がありました。一番組織体としてやらなければならないのは、すぐに

は登用できませんから、5年とか10年の目標を決めて、その目標を達成するためのキャリアパスをどういうふうに準備していくのかということが一つと。それからもう一つは、男性と同じような経路を歩かないと務まらないというポストと、そうでなくともちゃんと務まるポストというのを仕事分析した上でですね、再整理して、そして女性活用の対象事業としてセットしていくということが非常に重要ですよということを強調されておられましたので御披露しておきます。放っておいてはなかなか難しいというのが現状ではないかと思しますので、御協力をお願いしたいと思います。

続きまして、災害物資の協議会の活動状況について御説明を申し上げます。

○事務局 資料6をご覧ください。

関西災害時物資供給協議会の活動状況について御報告を申し上げます。

大規模災害時にも被災者に物資を円滑に供給するため、行政機関や民間団体、事業者等との連携・協力組織として平成29年の1月に設立されました本協議会ですが、現在会員数は物流・流通事業者等、65の事業者と団体によってなっております。

活動は、平時は防災訓練等への協力や参加、あるいは情報交換を通じて体制づくりを進めておりますが、災害時には物資供給活動への協力・参画をすることとしております。

4にありますように、30年度の活動実績としては3つございます。

1つは、緊急物資円滑供給システムワークショップの開催でございます。行政と民間の職員を対象といたしまして、緊急物資の供給の仕組みの理解を深めるための研修会を実施いたしました。33団体中、民間が22団体参加いただきまして、参加者の中からは官民連携の貴重な機会となったと評価をいただいております。

(2)にありますように、関西広域応援訓練を実施しました。プランや要綱やマニュアルを定めております。広域応援・受援活動の手順を検証するために、ロールプレイング方式によりまして図上訓練を実施いたしました。11月に兵庫県の災害対策センターで行いましたが、53団体に参画いただきました。想定は南海トラフ地震が発生し、

徳島県を中心に甚大な被害が生じた。徳島県の1次物資拠点、広域物資拠点が使用不能となったという前提で、関西広域連合が定めます基幹的物資拠点、0次物資拠点ですが、これは兵庫県の三木総合防災公園ですが、ここを開設・活用して物資の供給を行うという展開を行ったものでございます。

裏面をお願いいたします。

訓練内容の主なものは図上訓練ですので、関係機関による応援調整に起こり得る情報伝達訓練ということが中心になっておりますが、オにあります訓練結果にありますとおり、異業種間で意見交換ができる、顔の見える関係につながったとか、あるいは実際にしてみると、荷物の荷姿等の詳細情報の重要性が再認識できたという評価をする一方で、試行しました新しいツールなんですけど、googleスプレッドシートを使ったんですけど、これについての操作者の習熟度についての問題であるとか、あるいは停電時に代替策をどうするんだといった課題も明らかになったところでございます。

3つ目の取組としまして、総会を開催いたしました。協議会に参画している全事業者・団体が一堂に会しまして、昨年発生いたしました災害の対応状況等について情報共有を行ったところでございます。54団体に参画をいただきまして、記載のとおり大阪府や岡山県、あるいは民間ではローソン、あるいは滋賀県の倉庫協会から情報共有をいただいたということでございます。

報告は以上でございます。

○井戸広域連合長 特に御質問がなければ、次に、ジオパークの再認定審査の結果について、御報告をさせていただきます。

平井委員、お願いします。

○平井委員 資料7にございますが、まず、南紀熊野ジオパークにつきましては、1月18日に再認定が決まりました。同じ時に、例えば立山黒部とか天草は条件つき認定だったのですけども、この南紀熊野は無条件での認定ということになりました。

評価されたのは、例えばいかだ下りやラフティングなど、いろいろなアクティビテ

ィができてきており、観光なども大変盛り上がり始めた。多くの方々が楽しみながらジオパークというものに親しんでおられると。こういうことが評価されたということとであります。

そして裏であります、山陰海岸ジオパークにつきましては、ユネスコの世界ジオパークに2月26日再認定ということになりました。日本ジオパーク委員会は条件つき認定だったのですが、こちらは無条件での認定ということになっています。ただ、いろいろ課題として勧告事項といいますか、項目がつけられていましたが、もっとジオパーク運動を盛り上げてくれとかですね、具体的には玄武洞や、あるいは余部の空の駅、それから鳥取砂丘につきましては、例えば玄武洞のあの学術的な意義をもう少しわかりやすく発信したほうがいいのではないとか、余部でもせっかくああいう施設ができたので、景観についての解説など、そういう表示板があってもいいのではないとかですね。砂丘の気候変動との関係をもっと研究・調査すべきではないとか、いろいろと個別のことも含めて御提案がございました。ただ、非常に評判のいい審査でありましたので、問題なく審査されて認定されたと考えていただいて結構かと思えます。よろしくお願い申し上げます。

○井戸広域連合長　　いずれにしましても、広域連合が直接関係している2つのジオパークが再認定されたということですので、宿題があればその宿題をきちっと返していくということも含めて、ジオパークの知名度を上げて、観光拠点・ツーリズム拠点としての価値を高めるように努力をさせていただければと思います。

それから広域計画等のフォローアップ委員会からの議事録等ではありますが、広域計画等のフォローアップにつきましては、次か次の会に委員の皆様にお見えいただいて、この委員会でディスカッションをさせていただければと思っております。前回の広域行政のあり方検討会の委員とのディスカッションは大変有意義だったのではないかと思います。そのような意味で、次期広域計画の改定につないでいく意味でも、そのような機会を設けますのでよろしくお願いいたします。

最後に、子供のライフスタイルを考えるシンポジウムが開かれますので、チラシを入れさせていただいております。これはどちらかといいますと、広域連合の科学医療政策との関連で、関西健康・医療創生会議との関係でつけさせていただいたものでございます。

この際でございますが、広域連合にめぐりまして、何か御意見なりがございましたらお願いします。

どうぞ、平井委員。

○平井委員　今、広域行政の研究会の話もありましたけれども、一つだけ御報告申し上げたいと思います。

先般、地方分権改革有識者会議が開催されまして、そちらで知事会の主張などを申し上げました。その際ですね、今、手上げ方式といっているのですが、これについては例えばかつてのハローワークなどですね、佐賀や埼玉はやりましたが、権限をおろすという、そういうようなことをやっていたのですが、最近余りやってないと。いっそですね、関西広域連合のようなところは分権特区みたいな形でおろしてもらったほうがいいのではないかと。こういうことを発言させていただきましたところ、高橋先生という部会長とかですね、大臣も耳を傾けておられまして、これから夏に向けて地方創生などの計画づくりがあると。そういう時に、こうした分権のこととかも含めてですね、もう一度議論しなければいけない時期が来るのではないかというような発言を大臣もおっしゃっておられました。

したがって、広域連合としても長年の懸案であります。通常どおりのステージでやっても難しいのかもしれませんが、こういう分権の特区みたいなことですね、ある程度権限をおろすというようなことで受け皿もあるので、ぜひというような提案を、そろそろまたもう一度してもいいのかなと思いますので、御報告申し上げます。

○井戸広域連合長　ありがとうございます。

いずれにしても、今のような手上げ方式で各事務の効率化だけを念頭に置いたような事務移譲の検討では、我々が目標としているような国と地方との健全な関係をもっと作り上げていこうという趣旨とは少しずれているところがありますので、今の御提案の点も参考にさせていただきながら、我々広域連合としても検討を進めていきたいと思ひますし、また、平井委員は知事会の代表として分権委員会に入っているわけですので、バックアップをよろしくお願ひしたいと思ひます。

その他にございませんか。

それでは、102回の広域連合委員会、以上とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

○事務局　どうもありがとうございました。記者席にはいらっしやらないようですが、もし報道関係の皆さん、御質問等ございましたら、挙手の上お願ひしたいですが。よろしいでしょうか。じゃあ、以上で終了させていただきます。

**閉会　12時10分**